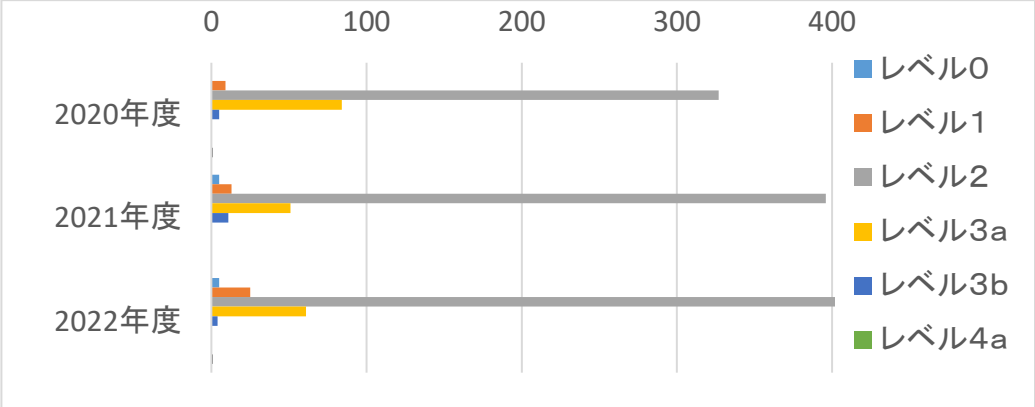
7－1　転倒・転落によるインシデント・アクシデント事象レベル別報告件数



転倒・転落は運動能力の低下、薬の服用、環境の変化など様々な要因で発生します。このため、入院時には、患者さん・ご家族とともに転倒・転落リスク評価を行い、入院生活で気を付けていただきたい点をお知らせしています。

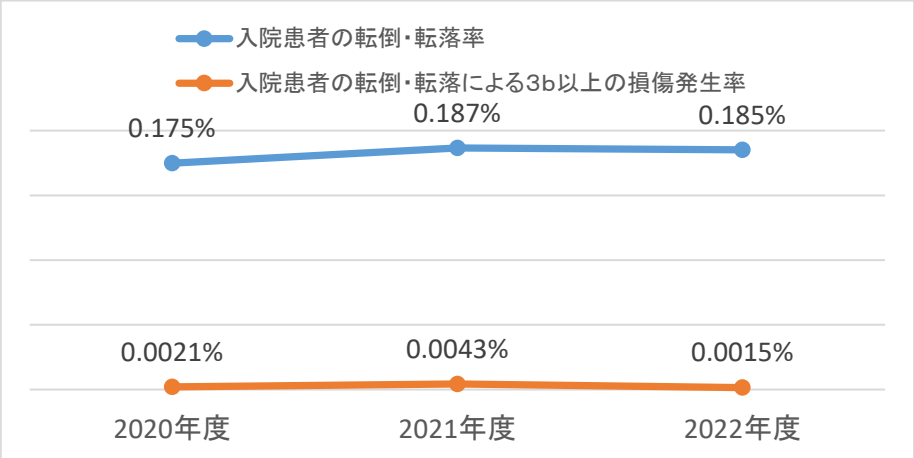
「履物の踵を踏みながら歩き出しつまずいた」「立ち上がったら、ふらっとして尻もちをついた」「荷物を取ろうとしてかがんだ時にバランスをくずして膝をついた」「寝ぼけて家の布団と間違えてベッドから落ちた」などの報告から、どのような場面で起きやすいのかを検証し、一人ひとりの患者さんへの援助方法について見直しを行っております。

また、転倒・転落が発生した場合は、医師が診察を行い、必要に応じてレントゲンやCT検査をするなど職員間の連携をしていきます。

日頃の生活で転倒しやすいなど、心配やご要望がありましたら入院前面談でもお知らせください。

医療安全管理室

7－2　入院患者の転倒・転落率



計算方法

$$\frac{\text{転倒・転落患者数}}{\text{入院患者延べ数}}$$

$$\frac{\text{転倒・転落による3b以上の損傷発生}}{\text{入院患者延べ数}}$$

※3bとは濃厚な処置や治療を要した事象（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）を意味します。

転倒・転落率が高くなる時期は、入院して2～3日目の環境変化、20日目以降では入院生活で筋力の低下が起きた時や、回復期における活動範囲が広がった時です。転倒・転落報告では70歳代の患者さんが最も多いです。病気による体力低下、病状から骨折の判明や治療の追加など影響度が大きくなる場合があります。

環境の工夫、多職種との情報共有を行い少しでも転倒・転落時の影響を低くするため対策を検討してまいります。

医療安全管理室